

CASBEE-建築(新築)2016年版

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

(仮称) 国土交通省 京都PDセンター1、2号庁舎増築工事

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価		全体	
		評価点	重み係数	評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質					2.5
Q1 室内環境			0.30		3.0
1 音環境		3.0	0.23	-	3.0
1.1 室内騒音レベル		-	-	-	-
1.2 遮音		3.0	1.00	-	-
1 開口部遮音性能		-	-	-	-
2 界壁遮音性能		3.0	1.00	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-
1.3 吸音		-	-	-	-
2 温熱環境		-	-	-	-
2.1 室温制御		-	-	-	-
1 室温		-	-	-	-
2 外皮性能		-	-	-	-
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-
2.2 湿度制御		-	-	-	-
2.3 空調方式		-	-	-	-
3 光・視環境		2.2	0.38	-	2.2
3.1 屋光利用		-	-	-	-
1 屋光率		-	-	-	-
2 方位別開口		-	-	-	-
3 屋光利用設備		-	-	-	-
3.2 グレア対策		-	-	-	-
1 屋光制御		-	-	-	-
3.3 照度		1.0	0.38	-	-
3.4 照明制御		3.0	0.63	-	-
4 空気質環境		3.7	0.38	-	3.7
4.1 発生源対策		3.0	0.63	-	-
1 化学汚染物質		3.0	1.00	-	-
4.2 換気		5.0	0.38	-	-
1 換気量		-	-	-	-
2 自然換気性能		-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮	給気と排気を、異なる方位とする	5.0	1.00	-	-
4.3 運用管理		-	-	-	-
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-
2 喫煙の制御		-	-	-	-
Q2 サブシステム			0.30		3.1
1 機能性		2.5	0.40	-	2.5
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-
1 広さ・収納性		-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-
3 バリアフリー計画		-	-	-	-
1.2 心理性・快適性		2.0	0.50	-	-
1 広さ感・景観		-	-	-	-
2 リフレッシュスペース		2.0	1.00	-	-
3 内装計画		-	-	-	-
1.3 維持管理		3.0	0.50	-	-
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-
2 耐用性・信頼性		2.5	0.30	-	2.5
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数		1.8	0.30	-	-
1 躯体材料の耐用年数		-	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		1.0	0.29	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床のコンクリート表面を強化剤で仕上げる	5.0	0.14	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	0.29	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.29	-	-
2.4 信頼性		2.6	0.20	-	-
1 空調・換気設備		-	-	-	-
2 給排水・衛生設備		-	-	-	-
3 電気設備		3.0	0.33	-	-
4 機械・配管支持方法		3.0	0.33	-	-
5 通信・情報設備		2.0	0.33	-	-

3 対応性・更新性			4.5	0.30			4.5
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30			
1 階高のゆとり		汎用性を持たした階高の設定	5.0	0.60			
2 空間の形状・自由さ		変化に対応した荷物のレイアウトを可能にした	5.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり		倉庫の収容物に汎用性をもたせた荷重設定を行う	5.0	0.30			
3.3 設備の更新性			3.7	0.40			
1 空調配管の更新性			-	-			
2 給排水管の更新性			3.0	0.25			
3 電気配線の更新性		専用EPS・倉庫内にケーブルラックを配置	5.0	0.13			
4 通信配線の更新性		専用EPS・倉庫内にケーブルラックを配置	5.0	0.13			
5 設備機器の更新性			3.0	0.25			
6 バックアップスペースの確保		専用EPSに強電・弱電盤を配置	4.0	0.25			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40			1.7
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40			2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30			2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性							2.8
LR1 エネルギー				0.40			2.3
1 建物外皮の熱負荷抑制				-			-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.13			3.0
3 設備システムの高効率化		[BE][BEIm] = 1.00	2.0	0.63			2.0
4 効率的運用			3.0	0.25			3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00			
4.1 モニタリング			3.0	0.50			
4.2 運用管理体制			3.0	0.50			
集合住宅の評価							
4.1 モニタリング							
4.2 運用管理体制							
LR2 資源・マテリアル				0.30			3.6
1 水資源保護			3.0	0.20			3.0
1.1 節水			-	-			-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	1.00			
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70			
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60			3.4
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10			
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		再生加熱アスファルト混合物、排水・通気用硬質ポリ塩化ビニル管	4.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		倉庫の為、内部仕上を省略し再利用を可能にした	5.0	0.20			
3 汚染物質含有材料の使用回避			5.0	0.20			5.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		内部仕上を省略し健康影響に考慮した	5.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避			5.0	0.70			
1 消火剤			-	-			
2 発泡剤(断熱材等)		ハフロン発泡ガス(炭化水素)を採用した断熱材を使用	5.0	1.00			
3 冷媒			-	-			
LR3 敷地外環境				0.30			2.7
1 地球温暖化への配慮			3.0	0.33			3.0
2 地域環境への配慮			2.7	0.33			2.7
2.1 大気汚染防止		燃焼機器が無い為、大気汚染物質を全く発生しない	5.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善			1.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25			
1 雨水排水負荷低減			-	-			
2 汚水処理負荷抑制			-	-			
3 交通負荷抑制		必要な駐車場・駐輪場を確保し適正な出入口を確保	5.0	0.50			
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.50			
3 周辺環境への配慮			2.5	0.33			2.5
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40			
1 騒音			3.0	1.00			
2 振動			-	-			
3 悪臭			-	-			
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			1.6	0.40			
1 風害の抑制			1.0	0.70			
2 砂塵の抑制			-	-			
3 日照障害の抑制			3.0	0.30			
3.3 光害の抑制			3.3	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70			
2 風光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		全面に窓の設置はナシ	4.0	0.30			